

1. プロジェクト研究について

(1) Clinical Stage0-I 直腸癌に対する腹腔鏡下手術の妥当性に関する第II相試験

- ・括約筋温存術での経肛門ブジーの有無、抜去時期の記載を追加する。
- ・8-9月末までにCRF送付予定。
- ・デバイス等について公表しないことを条件とし、協賛したエチコンとコヴィディエンにデータを提供することが承認された。
- ・学会 Society of American Gastrointestinal and Endoscopic Surgeons. 2012.03
World Congress of Endoscopic Surgery. 2012.04
European Association for Endoscopic Surgery. 2012.06
- ・論文 Short-term outcomes of laparoscopic intersphincteric resection from phase II trial to evaluate laparoscopic surgery for stage 0/I rectal carcinoma: Japan society of laparoscopic colorectal surgery Lap RC. Surg Endosc (accept)
Laparoscopic surgery for stage 0/I rectal carcinoma: short-term outcomes of a confirmatory phase II trial. (国立がん研究センター中央病院 山本聖一郎/投稿中)
DSTでの縫合不全のrisk factorについて (大阪医科大学 奥田準二/投稿準備中)

(2) Stage IV 大腸癌に対する腹腔鏡下手術の意義

- ・論文 A multicentre study of short- and long-term outcomes of laparoscopic palliative resection for incurable, symptomatic stage IV colorectal cancer in Japan (大分大学 猪股雅史/投稿中)
Risk factors for conversion of laparoscopic surgery to open surgery in incurable stage IV colorectal cancer patients and the impact of conversion on short- and long-term outcomes (慶應義塾大学 長谷川博俊/投稿中)
Stage IV 症例の術後合併症関連因子および予後の解析 (癌研究所有明病院 福長洋介/解析中)
Stage IV 大腸癌に対する施設別治療成績の較差 (京都大学 吉村健一/解析中)

(3) 高齢者における腹腔鏡下大腸切除術の有効性と安全性に関する後向き調査

- ・広島大学大学院 檜井孝夫より2012年ASCOでの発表について報告された。
- ・Laparoscopic surgery versus open surgery for colon and rectal cancer in elderly patients: A multicentre matched case-control study (論文投稿中)

(4) 横行結腸癌・下行結腸癌のretrospectiveな検討

埼玉医科大学国際医療センター 田代浄より1926例を集積(開腹837例, 腹腔鏡959例)し、1832例で解析中との報告がされた。
短期成績について論文を作成する。

(5) 腹腔鏡下ISR症例のretrospectiveな検討

ISRの妥当性についてはprospective studyの必要性が事務局より提案された。従って、国立がん研究センター東病院 伊藤雅昭により、次回ミーティングまでにprospective studyのプロトコールを作成することが承認された。

(6) 論文作成における共著者について

事務局で表を作成し、順番で論文および学会発表を行う予定。
症例登録数が少ない施設の先生にも、なるべく発表の機会をつくる。

2. 新規プロジェクト研究について

新規の研究希望があれば、事務局に連絡をする。

以上